

一 告 告



畠山 晟樹 (はたけやま せいじゆ)  
金沢工業大学大学院工学研究科  
バイオ・化学専攻  
博士前期課程二年  
富山県立福岡高等学校出身

# 菌は黴に比べて成長が早いので すぐに結果が出て楽しいですよ。

三つの私立大学に合格した畠山さんは、高岡市の自宅から通える金沢工大に決めた。就職率がいいことも要因の一つであった。そして高校時代から化学分野の企業を目指し、生物か化学かに進みたいと、バイオ工学・脳科学・遺伝子工学を幅広く学べる応用バイオ学科を選択したのだ。

「最初は授業もラクだったけど、専門科目が増えてきて、友人たちといっしょに学食やＬＣで勉強しましたし、数理工教育研究センターにも通いました。この大学では入学当初からグループワーク中心の授業や活動が多く、友人がつくりやすい。そして成績が悪いと先生から『大丈夫か?』と言われます。それはイヤだから絶対に九十点以上を取ろうと頑張りました。」

もともと微生物の研究を希望し、いくつか研究室で迷ったが、それがおもしろい。麹菌などの黴の場合の育成日数は一〜二週間、納豆菌などの細菌は一日から長くても三日。生育が早いならいろんな実験がたくさんできるだろうと。黴と菌はともに魅力的だが、やはり違うものなのだ。修士研究のテーマは『ジャーファメンターを用いた納豆菌変異株による核酸中間体オロト酸の高生産研究』である。

「オロト酸はプラスチック培養までは研究成果があるんですが、大量培養装置のジャーファメンターでは頭打ちになっていて、それを企業さん二社との共同研究という形で進めてきて、生産性がとれるようになってきたんです。pHや通気性の調整など難しい部分も多いんですが、今は医薬品としてではなく、家畜用飼料に使う方向で。」

学。「時間があるなら自分が考えた実験をやれ」というのが口癖らしいが、休日にテニスを楽しむ合間を縫って学生の実験を見に来てくれる。畠山さんもそれに応えて実験を五十回以上は繰り返している。

「就職は、高岡市の協和ファーマケミカルに内定しました。東京の大学に通う妹のアルバイトが狭く、こんなところで暮らすのはキツイなど。だから富山県で就活し、第一志望に。原薬の開発・生産という特長があり、バイオ系の酵素法も強みとしていることから、ぼくの研究も活かせると思つて。」

## 金沢工業大学

石川県野々市市扇が丘七七一  
電話番号(076)2482100